

平成 23 年度第 5 回うらやす市民大学運営委員会議事要旨

- 日 時 : 平成 24 年 2 月 14 日 (火) 午後 1 時 30 分～3 時 00 分
- 場 所 : うらやす市民大学受講室
- 出席者 : 古在委員長、山内副委員長、阪本委員、山本委員、早坂委員、高橋委員、豊田委員、仲澤委員、中山委員、伊藤委員
- 事務局 : 金子市長公室次長、永井協働推進課長、斎藤副主査、岩波市民大学事務長、高柳主任主事

■会議次第 :

1. 開会
2. 委員長あいさつ
3. 報告事項
 - (1) 学生会の活動状況について
4. 議題
 - (1) 平成 24 度授業科目について
 - (2) 学籍について
5. 事務連絡
6. 閉会

■議事概要 :

●学生会の活動状況について

山本委員から学生会を代表し、2 月 10 日に開催された学生会主催大懇親会のお礼と校章の投票結果について報告があった。今回選ばれた校章については、今後、学生会が発行する広報紙に掲載するなど、学生会のシンボルマークとして活用したいとのこと。

□主な意見

(長 : 委員長 委 : 委員 事 : 事務局)

長 : 学生会の校章ということであれば、この場で承認したいと思う。ただ、一般的に校章というのは難しく、結果的に似てしまうと使えなくなってしまうこともある。訴訟となるケースもあるので十分に調査することが必要。

委 : 市でロゴを創ったときも結果的に似たものがあって、最終的に使用できなくなってしまうこともある。とても良いデザインなだけに他で利用されてしまっている可能性もある。

長 : 市民大学にはデザインを担当していただける宮崎副学長もいる。相談してみてもどうか。

委 : 本日、宮崎副学長が欠席なので、後日、相談させていただく。

●平成 24 年度授業科目について

事務局から平成 24 年度授業科目の進捗状況について説明し、現在提出されているシラバスについて確認していただいた。

□主な意見

(長：委員長 委：委員 事：事務局)

委：定員は毎回運営委員会で決定しているが、募集後、希望者全員を受け入れてしまい、最終的に大人数となってしまうことがある。「うらやすの豊かな高齢化社会を創る」については 25 名定員が、開講時には倍の人数となってしまった。フレキシビリティをどの程度するということだが、個人的には多すぎる気がする。

長：私の担当するライフデザインは実質 15 人だが、なかなか雰囲気がいい。希望者が少ないということであればいいけれど、希望者がたくさんいるのにそれを受け入れないというのはどうだろうか。

委：「担い」科目であれば人数を少なくしてもいいかと思うが、「出会い」科目、「気づき」科目は、入学する機会を奪うことになりかねない。あと「出会い」、「気づき」、「担い」を募集案内に明記してはどうか。

委：私も「高齢化社会」を受講しているが、私としては希望者が多いのであれば、特段の理由がない限り、全員を受け入れてもいいと思う。全員の顔と名前を覚えることはできないが、多くの人と出会うことができる。コーディネーターの先生の配慮により、授業内で時間の許す限り、受講生と意見交換を行い、双方向型の授業を行っている。授業を通じて市民と担当職員の敷居も低くなったように感じられた。

委：私も評判を聞いて 1 度聴講した。人数が多いせいか、在校生が積極的に意見し、新規の方は割と聞いていることが多いように見受けられた。双方向型の授業であれば、人数を絞った方がいいのではないか。

長：人数が多いことは行政にとっていいことだと思う。希望する人を断ってしまうのは、申し訳ない気がする。

事：学生企画講座についてもご意見をいただきたい。

委：学生企画講座を担当するコーディネーターは、市民会議で街づくり分科会に所属され、大変研究熱心な方。昨年行われた市民プレゼンツ科目でも講師として、説得力のある講義を行われ、受講生からも好評だった。大変期待できる内容である。

事：学生企画講座はより多くの方に参画いただきたいと考えている。できれば、お一人が講師を務められるのではなく、複数の方でご担当いただければと思う。

長：何回か他の方がお話になるチャンスを与えていただければと思う。コーディネーターの方には、運営委員会でこのような話があったことをお伝えいただきたい。

委：学生会企画運営部会でもう少し、学生企画講座の内容を練ったらどうか。

長：学生会の企画運営部会が学生企画講座の内容をまとめるにしても、学生会 3 役も含めて内容を協議することが必要。

委：設立時、市民大学が市民のための大学であり、多くの人に関わっていただくという趣

旨で開設された講座が本講座だったと思う。多くの方に関わってもらうためにもコーディネーターは、毎回違う方になっていただいた方がいい。

長：「みんなで創る大学」という理念からすると色々な方に関わっていただいた方が望ましい。

委：運営委員会でこのような話があったことを学生会で報告し、再検討させていただく。

長：特別科目にも学生会主催のパソコン講座があるが、これはどのような位置づけなのか。

事：特別講座については、募集案内には掲載せず、6月以降に学内で募集する予定。

委：学生会でパソコン講座の企画が持ち上がっているが、まだ、まとまっていない。

委：同じく特別講座のジュニア向け環境講座で、対象が中学生となっているが、これを高校生にすることはできないか。高校生になると浦安から離れてしまうことが多い。この講座をきっかりに浦安に関心を持ってもらえたらと思うが。

事：当初、コーディネーターから高校生向けの講座というご提案であったが、募集をかけるにあたって浦安市内の高校が4校と少ないことから、中学生向けではいかがかとコーディネーターに打診した。今いただいたご意見も参考に後日コーディネーターと調整したい。

委：環境講座は公民館講座を圧迫することにはならないか。

事：出前講座で小学生を対象とした講座はあったが、中学生・高校生向けの講座はないと把握している。

事：本日の段階ではシラバスが出そろっていないため、募集案内の原案ができた段階で、委員の皆様にもメールで確認していただきたいと考えている。

委：開講期日はこれで決定か。「出会い」、「気づき」科目が11月開講に偏っているようだが。

事：今年度は通年制で20回の講座については6月開講に集中してしまったことにより、「出会い」、「気づき」科目の開講が11月に集中してしまった。

長：今から日程を変更することは難しい。来年度の課題としたい。

●学籍について

事務局から1期～3期の学籍期間が本年の3月31日までとなっているため、その後について検討いただきたい。事務局案としては、1回(2年)に限り継続(延長)し、受講できるようにする。継続(延長)にあたっては、「継続(延長)を希望する理由」などについて作文を提出いただきたいと考えている。学籍については、市民大学設置要綱第10条にある「特に重要な事項については学長と市長の協議により決定する」に該当するため、この会議で運営委員会としての方向性を決めていただき、最終的に学長と市長の協議により決定する。

□主な意見

(長：委員長 委：委員 事：事務局)

委：20代、30代に市民大学で勉強し、数十年してシニアになって、また勉強したいのにできないというのはどうかと思う。

委：学生会でもOB会の立ち上げなどについては懸案事項となっている。個人の意見として

は世代交代が必要だと思う。

委：学籍をつくる意味合いとして色々あったかと思う。市民大学で学んだ成果を地域に生かしていくというイメージがあったが、まだその仕組みがない。他の部署とも連携して協働へと向かう仕組みづくりを作っていかなければならない。

委：他市の参考事例はないのか。

事：うらやす市民大学のように授業科目制を取っている市民大学は少ない。次回の運営委員会までに調べてみる。

委：学籍期間の開始日はいつになるのか。

事：特段運営員会で決定していなかったため、期間の開始日は開講日となっている。

委：学生会の役員任期にもかかわってくる。学生会としては、次期役員が決定した段階で交代と考えている。

委：年1回の募集で、2年間の期限というは短いのではないだろうか。入学希望者がたくさんいて、在学生在がその妨げとなるなら、この仕組みは考えられるが、将来、市民大学の学生数が確保できるかどうかわからない段階で、安易に学生数を削減するのは危険ではないだろうか。

委：在学期間について一般大学では8年、社会人の対象とした放送大学では10年までだったかと思う。市民大学は一般の大学とは異なるので、一概に当てはまらないと思うが、そういう例もある。在学生在がいなくなってしまった場合、新陳代謝がうまく図れるかわからない。

長：こんなに留年希望の多い大学はめずらしい。市民大学が皆さんから高い評価を得ていて大変嬉しい。一方で5年も10年もいる牢名主のような人に市民大学が牛耳られてしまうことになって困る。学生会について運営委員会が意見を述べる立場にないが、「何年以上市民大学に在籍する人は役員にならない」などの規定をつくることも必要ではないか。そのうち、OBを集めて同窓会も立ち上げてもいい。学内だけでなく、外との繋がりをもつことも必要。市民の税金を使っているのだから、本来は市民に還元しなくてはいけない。いつまでもただ勉強しているだけではいけない。

長：先ほど、山内先生とお話する中で、市民大学の記録を本にした方がいいと考えている。できれば山内先生に原案を作っていただき、次回の運営委員会で報告いただければと思う。

委：市民大学が設立して3年経過するし、タイミングとしてはいいと思う。活字にして、市民大学のモデルケースとして全国に公開するという意味がある。今すぐ作成というのは困難と思うが、今から計画して、比較的速やかに実現できればと思う。また、活字化するというのにはある程度経費もかかってくる。

長：全国に発信し、ほかの自治体のモデルケースにしたい。経費についてもいろいろあるが、コーディネーターをしていただいた方に一万円ずつ寄付していただいて、受講生の方に千円ずつ寄付していただければ、編集代くらいは賄えるのではないかと。学生が資料を集めて、整理するうちに新たな発見があると思う。編集の才能に長けた方、イラストが上

手な方、まとめることが得意な方がいると思う。学生会と共同でやっていっていただければいいかなと思う。

事：学生の広報部会から、「市民大学の歩み」のようなものを作成したいということで、市民大学設立時からの資料をいただきたいとの要望があった。

委：本の出版に関しては古在学長より以前から打診されてきたことで、学生会でもかねてから検討してきた。本を作るということは労力もかかることなので、来年度に入ってから、体制を整えていきたい。

長：誰かが最初にプランを作ることが大事。そのプランに沿って資料を集めていくことが必要。

委：私は市民会議で報告書を作った経験がある。3年も経つと記憶が薄れてくる。まずは、今ある資料を収集し、データベースを構築することが必要。

長：データの収集はプラン作りと同時進行で進めること。本を作るためには目次がなくてはならない。目次があって、どんな資料を集めるか決まってくる。目次に沿って資料を集めればいい。

事：本の出版に関しては、学生会広報部会が担当ということでよろしいか。

委：学生会の広報部で担当させていただく。

長：情報の収集に当たっては個人情報の兼ね合いもあるので十分に気を付けていただきたい。

委：本の作成については学生会主体で行っていきたい。ただ、手に負えない部分については事務局にご協力いただきたい。

長：授業のレジュメや受講生のアンケートなど膨大な量の資料がある。まずは山内先生に原案を作ってもらって、どんな資料が必要なのか精査する。

事：議題2について確認したい。平成24年度授業科目を1つ以上受講していただき、継続理由を記載した作文を提出することについて、2年間更新することについては承認いただけるのか。

長：2年間の更新および要件については承認する。学籍限度期間については、今後の検討事項としたい。更新の手続きについては複雑なので、事務局でわかりやすい文書を作ること。

●事務連絡

次回運営員会は5月18日(金)午後3時00分から開催

以上